

## 会員資格更新のお願い

これまで、ユマニチュードの技術や哲学を共に広めてくださりありがとうございます。  
ぜひ今後も、共に活動いただけますよう会員資格の更新をお願いします。

### 正会員／専門職会員の皆さま

会員システム（MiiT+）にログインし、  
更新手続きを行ってください。

IDとパスワードは  
ご自身で登録いた  
だいたものとなり  
ます。



<https://jhuma.org/members/miitus/>

MiiT+トップより〔継続〕正会員または  
〔継続〕専門職会員を選択ください。  
選択された会員種別の年会費をお支払いください。

### 市民会員の皆さま

2021年10月より「市民会員」は  
「家族と市民の会」に名称を変更致しました。  
年会費は変わりません。

公式ホームページ  
から更新手続きを  
行ってください。



<https://jhuma.org/kazokutoshimin-kousin/>

上記のURLもしくは会員メールでお送りしたリンク  
〔継続〕家族と市民の会の年会費からアクセス頂けます。  
会員種別の変更を希望される場合は、正会員／専門職  
会員の同様の更新手続きを行ってください。

### 賛助会員の皆さま

事務局よりお送りしております「賛助会員年度更新のご案内」メールをご確認ください。

### 情報発信のご案内

会員コンテンツやイベントレポート ▶

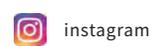
学会公式ホームページ <https://jhuma.org>



メディア情報・各種最新情報 ▶



ユマニチュードの哲学や技術発信 ▶



ケース別活用や各映像記録 ▶



一般社団法人 日本ユマニチュード学会事務局  
〒152-8902  
東京都目黒区東が丘 2-5-1 国立病院機構東京医療センター内  
E-mail: [info@jhuma.org](mailto:info@jhuma.org)

学会ホームページ  
<https://jhuma.org>



日本ユマニチュード学会  
Japan Humanity Association



## 2020年度 年次報告書

Japan Humanity Association

2020. 7. 1～2021. 6. 30



# 代表理事挨拶



本田 美和子 Honda Miwako

いつも日本ユマニチュード学会の活動を支えてくださり、ありがとうございます。私共は2019年7月に「誰もができる社会の実現」を目指して一般社団法人として発足し、無事に第3期を迎えることができました。

ユマニチュードは、イヴ・ジネスト先生、ロゼット・マレスコッティ先生が考案したケアの技法です。二人は医療機関や介護施設などを訪れ、そこで職員の方々が「ケアを行うことが難しい」と感じている患者さんや入居者に対して一緒に解決策を考え、実践を積み重ねてきました。40年を超えるその経験から誕生したユマニチュードは、「ケアをするひとは何か?」という哲学と「あなたはとても大切な存在です」と絶え間なく伝えると同時に質の高いケアを実現するための数々の具体的な技術から成り立つマルチモーダル・ケア技法です。

「相手の尊厳を守る」ことや「優しさ」が大切であることに異論のある方はあまりいらっしゃらないと思いますが、それと同時に、私たちはこれらを実現することがどれほど難しいことを痛感しています。自分たちの職場や家庭でこれらの「私たちが大切にしていること」を実現するための具体的な手段として私たちはユマニチュードを提案します。別の言い方をすれば、ユマニチュードはケアを通じて自律、自由、平等、博愛の実現を目指しています。

この実現には、ケアを行う個人の力だけでなく、ケアが行われる環境や施設運営方針など多くの要素が必要です。そのために、フランスでは自分たちの施設の客観評価を求める動きが生まれ、2013年よりユマニチュード施設認証制度が始まりました。この制度は次の5つの原則の実現を目指し、それを達成した施設に付与されるものです。

## ユマニチュード認証施設の5つの原則

- ・ 強制ケアをゼロにする。しかし、ケアをあきらめない
- ・ 本人の唯一性とプライバシーを尊重する
- ・ 最期の日まで自分の足で立て生きる
- ・ 組織が外部に対して開かれている
- ・ 生活の場・やりたいことが実現する場をつくる

日本でも2021年から施設認証制度についての準備が始まりました。ケアを受けるひと、ケアを行うひと、ケアの場を提供する施設の三者が互いを尊重し、「良い生活」を送ることができるための試みです。「ユマニチュードがここにある」ことを可視化できる制度として育てたいと考えています。

会員の皆さまに役立てていただける様々な試みをこれからも続けて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

本田 美和子

## 理事・監事からのメッセージ



阿川 佐和子 Agawa Sawako

今年のユマニチュード総会を通じて、理事の一人である私自身が改めて自戒したことがたくさんありました。ユマニチュードにはたくさんのお有効なメソッドがあり、それらをきちんと達成させるために必要な技やコツが存在します。しかし何よりユマニチュードに必要なのは、相手の心の奥に思いを馳せ、さりとして自分が優位な場所にいるのではなく、弱っている相手におおひなる敬意を払いつつ、おのずと互いに笑顔が浮かべられる時間をつくること。そのことに集中していれば、いつか自らの心がやわらかく解けていく。南高まりさんのお話を伺いながら、まだ私はそこまで到達していないと反省し、同時に明日への希望が湧いてきました。



荒瀬 泰子 Arase Yasuko

福岡市では「ユマニチュード」という言葉が一般市民にもかなり浸透してきています。誰でもなるかも知れない認知症、でも心配しないで、私たちはユマニチュードの技法であなたに優しさを伝えることができます。



入江 芙美 Irie Fumi

「大切なものは目に見えない」——サン=テグジュベリの『星の王子さま』に登場するキツネのこの言葉が、これほど痛烈に胸に響くことは、これまでなかったように思います。COVID-19は、私たちが生きていく上で無くてはならないもの、「絆」の大切さを浮き彫りにしました。目に見えない大切なものを伝える技術=ユマニチュードの必要性が高まっている今こそ、会員の皆さまと力をあわせて、学会の活動をさらに広げていくべき時だと思っております。お力添えを、どうぞ、よろしくお願ひいたします。



大島 寿美子 Oshima Sumiko

ケアをする人もケアを受ける人も元気になるユマニチュード。「関係性」に焦点をあて、相手からの贈り物を受け取り、自分の感情を認めることにより、良い関係が築けます。やればやるほど感じる奥深さを一緒に味わっていきましょう。



小川 聡子 Ogawa Toshiko

病院医療従事者が、ユマニチュードを実践し、入院環境で混乱される認知症の患者様と心を通わせ、患者様の生きる力を引き出している。そのために、学会が、現場の日々の取り組みをシェアしあい、励ましあい、知識や実践を確かめられる場となるよう取り組んで参ります。



中澤 篤志 Nakazawa Atsushi

ユマニチュード学会もついに発足から3年目となりました。おかげをもちまして、この2年で、ユマニチュードの有効性やスキルの解析、学習システムの開発など学術的な成果も多く生み出すことができ、今後も一層皆様に還元していきたいと思っております。引き続きご支援をお願いいたします。



永井 美保子 Mihoko Nagai

互いの自律を尊重し、「あなたはこの世界で唯一無二の大切な存在である」ことを、相手が理解できるよう伝え合うユマニチュード。この思いが届けられる優しさを、社会の隅々まで浸透させたい。そして皆が幸せな人生を全うできますように。会員の皆さまと共に歩んで行けたら嬉しいです。



松崎 良太 Matsuzaki Ryota

ケアを受ける人に自分が人間であることを思い出し、もらうという、ユマニチュードの考え方に深く感銘を受け、ご縁をいただきお手伝いをさせていただいております。自分自身は医療や介護の世界とは全く異なる業界に身を置いている門外漢ですが、認知症だった亡き父を想いつつ、微力ながらお力になれればと考えています。



市来 崇 潔 Ichikizaki Kiyoshi

成功裏に終わった2021年度の総会や、施設認証制度の実現に向けての取り組み・進捗状況などを見てみると、日本ユマニチュード学会のパワーを強く感じます。私も、学会の動きに後れを取らないように、自施設へのユマニチュードの浸透・定着を一步一歩、着実に目指したいと思っております。



小川 克巳 Ogawa Katsumi

この度、第二期目の理事を引き続き務めさせて頂くことになりました。参議院議員・理学療法士の小川克巳です。ユマニチュードとの初めでの出会いの時の感動を、認知症の方との関係作りに悩まれている多くの方々に感じ頂きたく、微力ながら政策作りの立場からしっかり仕掛けていきたいと考えています。



田中 とも江 Tanaka Tomoe

ユマニチュードに関心をお持ちの皆様、こんにちは。田中とユマニチュードとのご縁は7年前に東京医療センターでのイブ氏の講演に参加したことがきっかけです。その中でも身体抑制の討論で感銘を受け、私の再出発の機会を頂き現在に至っております。これからも学びを共にする皆様と歩んで参ります。宜しくお願いいたします。



吉川 左紀子 Yoshikawa Sakiko

ユマニチュードは、ケアする人とされる人の心をつなぎ、両者を幸せにするケアの技法です。自分が高齢になったとき、こんなケアをしてもらえ施設や病院があったらぜひそこに入りたい。私がユマニチュードに関心をもったきっかけは、この直感でした。多くの皆さまと、この幸せを共有したいと願っています。



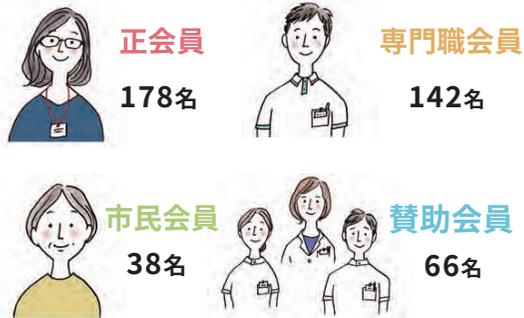
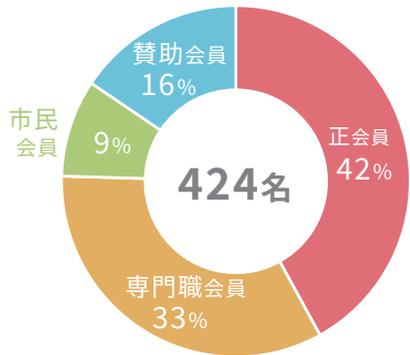
山下 淑恵 Yamashita Toshie

自分が自分らしく最後まで生きることが難しくなっている時代ですが、ユマニチュードはそれを実現できる画期的なメソッドであり哲学であると思います。ユマニチュードのみならず効果をより多くの方が享受できるよう、微力ながら監事として学会の活動を見守りお手伝いできたらと思っています。

# 第二期の主な活動

COVID-19の感染拡大影響を受け、活動は大きく制限されてしまいましたが、オンラインによるコミュニケーションを積極的に取り入れ、雨宿りの木での会員交流や認定インストラクターの資格更新制度改革に取り組みました。

## 会員数 (2021年6月末時点)



※「市民会員」は、2021年10月より「家族と市民の会」に名称を変更します。

## 会員コミュニティ 「雨宿りの木」参加者

参加者 **370名**  
※2021年6月末までの延べ参加者数

個別共有会 **24名**

勉強会 **346名**

オンラインでの勉強会や共有会を定期的に開催し、多くの方にご参加頂きました。



## 公式ホームページ

閲覧数 **404,004 pv**  
※2020年7月1日~2021年6月30日の集計

ユーザーの皆様が必要な情報にアクセスしやすいよう、ホームページリニューアルを行いました。



2020

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2021

1月

2月

3月

4月

5月

6月

イヴ・ジネスト先生、日本滞在



### 9月 雨宿りの木

「急性期病院へのユマニチュード導入と導入後の変化」をテーマに、東山会理事長/当学会理事・小川聡子先生にお話しいただきました。



### 10月 雨宿りの木

小川先生に続き、同病院ユマニチュード推進室長/当学会教育育成委員長・安藤夏子さんに現場実務者としての思い、悩みをお話しいただきました。



### 12月 学会だよりリニューアル

いつもそばに置いていただき、ユマニチュードを意識する環境作りに役立ててもらうため、カレンダー形式の学会だよりに変更しました。

### 7月 インストラクターフォローアップ研修

各所属先における1年間の活動実績を共有するなど、認定インストラクター達が相互交流を図り、学びを深めました。



### 9月 第2回日本ユマニチュード学会総会

第2回総会のテーマは「ユマニチュードが挑むケア・イノベーション」福岡・フランス・全国をつないでユマニチュードが拓く未来を語り合いました。



### 11月 雨宿りの木

参議院議員/当学会理事の小川克巳さんとともに、デジタル化が進む社会でのケアの未来像を語り合いました。



### 1月 家族介護について語る会

ジネスト先生も参加され、抽選で選ばれた6名の会員様それぞれの悩みや相談に向き合いました。



### 3月 研修経験者の会

介護方法や患者様・入居者様との関係だけでなく、指導方法やケア技術の職場浸透などを話しました。



### 5月 家族介護について語る会

2回目の家族の会では、より個別のケース相談も多く、お一人おひとりの状況に沿った悩みを話し合いました。



### 2月 現場での課題共有会

日頃のケア現場で感じている不安や課題について共に考え、そこでの議論をQAとしてご紹介することとしました。



### 4月 会員勉強会

フランスのユマニチュード認証施設を視察された森山由香さんが、現地で見たケアの様子を豊富な写真とともに報告してくださりました。



### 6月 雨宿りの木

「コロナ患者へのユマニチュード」をテーマに、実際にコロナ患者の受入を担当した東京医科歯科大学病院の看護師・上原佳代子さんがお話しいただきました。

# 「雨宿りの木」開催レポート Report

参加された方からの反響の大きかった「雨宿りの木」の一部をご紹介します。

## 『フランスのユマニチュード認証施設を見学して』

2021年4月24日 会員勉強会

現在、当学会で準備を進めているユマニチュードの施設認証制度について、認定インストラクターであり、当学会の施設認証準備委員長である森山由香さんが、すでに制度があるフランスでそのケアの現場を視察した様子を語ってくれました。フランスの認証施設は、「ユマニチュードの5原則」に従い責任を持ってケアを行うことを誓約し、そのことが入居者やその家族、外部からくの方にも分かるように掲示しています。

### ユマニチュード認証施設の5つの原則

- ・強制ケアをゼロにする。しかし、ケアをあきらめない
- ・本人の唯一性とプライバシーを尊重する
- ・最期の日まで自分の足で立って生きる
- ・組織が外部に対して開かれている
- ・生活の場・やりたいことが実現する場をつくる

### いろいろな場におけるユマニチュードの取り組み



フランスの施設を参考に施設に掲示したポスター

### 自分で選択するアクティビティ



個人を尊重し、自分で選べるアクティビティ

5原則に基づいて、ケアプランが「入居者の方の人生のレベルでの支援計画」として個別に作られていること。鍵は入居者本人が持ち、OKがない限りスタッフは入らないこと、認知症専門フロアにもパソコンが置かれ自由に情報を得る場が提供されていることなど、服装から睡眠、食事、居室空間と入居者の生活の全てに、その人らしさを尊重し、人としての尊厳を保つケアが徹底していることに感銘を受けたそうです。「今、日本版認証制度を作っていますが、認証が最終目標ではなく、そのプロセスを大切にしながらケアの質を高めなければと感じました。」とまとめました。

## 『コロナ患者へのユマニチュード』

2021年6月19日 現場での課題共有会

新型コロナウイルスによる入院患者の病棟を1年間担当した、看護師の上原佳代子さん(認定インストラクター)をゲストに招き、感染症のケアの現場でどうユマニチュードを実践したのか、その体験を語っていただきました。外科病棟が突然コロナ病棟に変わり、強い不安と恐怖の中、4月の最初に1例目の患者さんを迎え入れたことから始まったと語る上原さん。

当初は、コロナ患者さんにユマニチュードを実践することは無理だと思っていたけれど、防護服を正しく身に着けていれば感染のリスクは高くないと分かってから、少しずつ接し方が変わりました。コロナの病棟は隔離された特別な環境だからこそ、ユマニチュードが逆に必要だなとも感じることをさえあったと教えてくれました。

また、会には同じ悩みを持つ方からの質問も多数寄せられ、一つひとつ丁寧に答えさせていただきました。

### 寄せられた質問

コロナ禍にあることを認識できない高齢者に対して「その人らしさ」を大切にすることは?



看護師が防護服を着てラウンドする時間を決めて対応していると、突然の不穏に対応できません。どうしてますか?

コロナ患者さんのご家族からの会いたい、直接励ましたい等の要望にどう答えていますか。



## 第3期の注力活動

ユマニチュードに賛同する多くの方に参画いただき、会員としての利点を感じていただけるよう活動を強化していきます。

### 1 日本版 施設認証制度

(2022年4月開始予定)

- 日本の施設認証制度では、3ステップの認証を考えています。
- ・基本の理解と導入を示す「ブロンズ」
  - ・基本の実践と定着を示す「シルバー」
  - ・高いレベルでの実践と定着を示し国際認証となる「ゴールド」

ユマニチュードが掲げる5つの原則の実現を通して、入居者・職員・施設の3者がお互いを尊重し、幸せに過ごせる施設の拡大を目指していきます。



### 2 「雨宿りの木」継続開催

同じ悩みを持つ会員の方向士が集まり、悩みを共有しあったり、ユマニチュードの理解を深め合ったりできるよう、定期的に開催していきます。



#### 開催予定の主なテーマ

- ・施設でのユマニチュードの取り組み、研修事例
- ・ユマニチュード施設認証制度について考える
- ・コロナ禍におけるユマニチュード
- ・科学的介護の実現に向けて (CREST) 活動報告

### 3 プロジェクトサポーター制度の導入

今後、施設入居に頼らない要介護者が確実に増えることを鑑み、ヤングケアラーを含む家族介護者に加え、広く地域社会でサポートできる体制を整えられるよう「優しさが伝わるケア浸透プロジェクト」を立ち上げました。

具体的には、ユマニチュードについて広く知っていただく機会として市民公開講座の実施や、介護体験談の募集・共有、冊子の制作・配布などを行なっていきます。

